



日刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

99.1.1 No. 4899



もともと地上には道はない
歩く人が多くなれば
それが道になるのだ

魯迅

動労千葉は今年、結成20周年を迎える。動労の目にあまる変質に抗し、われわれが新組合の結成に踏み切ったのは一九七九年三月三〇日のことであった。

「この組合結成は、労働運動の大義を守り、動労の変質を正し、戦闘的伝統を継承・発展させんとするわれわれの闘いの一過程であり、われわれは革マル反動分子による動労私物化、ファッショ的組合支配を打倒し尽くすまで闘いぬく決意をあらためて宣言する」(結成宣言)。

その後動労「本部」は、急坂を転げ落ちるように凋落の道を歩んだ。分割・民営化攻撃の手先となって、86年には総評を脱退し、87年には自らに終止符を打ち解散を決定するに至ったのだ。

その間われわれは、81・3ジェットスト、分割・民営化反対の二波のスト、JR体制下での幾多の闘争を始め、息つく間もない闘いを展開し、時代と拮抗して団結と労働運動の大義を守りぬいた。

新たな飛躍に向けて

しかしわれわれは、この地平を誇ることので満足しようとは考えていない。結成20周年の今年、新たな飛躍をかけて大躍進運動への挑戦を開始する。

今、多くの労働組合が、大失業と戦争の時代に抗して闘うことを放棄し、体制



擁護運動に変質しようとしている。しかしわれわれは、労働者の力で現状を変革していこうという情熱によって運動を組織する。労働組合とは、労働者が資本と闘うための武器であり、そのための組織だ。しかも、つねに労働者全体の利害を代表し、時代と真正面から向かいあつて闘うものとして存在しなければ労働組合とは言えない。労働者は今、大失業時代の嵐にさらされている。しかし、大失業と戦争の時代とは、労働者が、自らが置かれた現実のなかから階級社会の本質を見、休息に自己と団結を回復していく時代でもある。われわれの新たな挑戦は、この激動の時代に通用する新たな世代の動労千葉を創りあげることだ。

もち越された決戦

今年、国鉄闘争と新安保ガイドライン関連法一有事立法をめぐるまっただなしの攻防の年となる。

国家権力は、昨年の5・28判決で、国鉄闘争を力づくでおし潰す意志を明らかにすると同時に、今後不可避に起きるであろう労働者の反乱や闘いに対して、労働法規など無視して徹底的に弾圧することを宣言した。5・28判決は、労働運動にとつて歴史を画するような意味をもつ重大な攻撃である。これと期を一にして様々な反動勢力は、闘いの放棄の証として、国労に国鉄改革法の承認を迫る要求をつきつけ、国労の内部からもこの攻撃に呼応する部分が生みだされた。

われわれはこの5・28判決を巡る攻防を、国鉄闘争のみならず、これからの日

本の労働運動全体の路線と進路を巡る攻防である位置づけ、これとの対決を全力で訴え、怒りの声を組織して闘いぬいた。そして、国鉄闘争の年内終決の目論みはひとまずはね返され、この正念場の攻防戦は今年99年に先送りされた。新ガイドライン・有事立法の制定を巡る攻防戦も同様に今年一月からの通常国会にもち越されている。自民党は、自由党・小沢との連立政権を発足させ、小沢流の強権的・ファッショ的手法で、この法案一挙に通そうとしている。

資本主義の黄昏

資本主義体制の未曾有の危機が一層深刻化することは間違いない。ドル暴落・米株価暴落の危機が迫っている。アメリカはすでに一兆ドル超の対外債務を抱えている。ドル紙幣を印刷して海外から借金をしまくるような状態をいつまでも続けることはどう考えても不可能だ。バブルで膨らみきつた株値も、それを維持するのはもはや限界だ。ドルと米株価は崩壊・暴落の瀬戸際まできている。

アジア全域で、信じがたいほどの勢いで経済の縮小が進行している。そして日本は、明らかに経済の収縮、信用の収縮、物価の下落が悪循環のように連鎖するデフレスパイラルと呼ばれる状態に突っ込んでいく。政府は、金融機関に無尽蔵に公的資金を注入するというなりふり構わぬ方法で危機を繰延べているが、こんなことで解決がつく状態ではない。

「近代ブルジョア社会は、自分で地の底から呼び出した魔物をもはや制御できなくなつた魔法使いに似ている」(共産党宣言)。資本主義は、結局恐慌を回避することはできないであろう。そして今年、戦争への衝動が世界を覆うような年になるであろう。年末にアメリカとイギリスは、イラクへの爆撃を強行し、自民党小淵政権は真つ先にそれを支持した。まさに、従わない者は力で叩き潰すとい

うむきだしの帝国主義の論理が大手を振ってまかりとおるおとしているのだ。

新たな時代の建設を

失業率は、昨年末に戦後最悪の状態をさらに更新して四・四％に達した。企業倒産件数も激増の一途を辿っている。通常国会には、労基法の改悪につづき、派遣労働の全面自由化を内容とする労働者派遣法の改悪案が上程されようとしている。99年は、労働者にとって、きわめて苛酷な攻撃が吹き荒れる年となることは間違いない。しかし、資本主義体制が崩壊し終わりゆく時代が始まるうとしているのだ。ひとつの時代の終わりは、新たな時代の建設の始まりを意味する。厚い壁が崩れ、社会のトータルな変革という課題が、まさに選択可能な課題としてわれわれに問われているということだ。これまでとは比較にならないほど多くの労働者が団結し、闘いに立ちあがる条件が与えられている。われわれの前に道はない。しかし道はわれわれが創る。

この時代にこそ!

われわれは、昨年「闘う労働組合の全国ネットワークを創りあげよう」と訴え、新たな闘いへの挑戦を開始した。労働者の怒りの声は高鳴りはじめていく。大失業と戦争の時代にこそ、労働者は歴史を創り、歴史を動かす社会の主人公として登場しなければならぬ。

われわれの20年間の闘いと訴えがいよいよ力を持つ時代がきたのだ。支配体制は揺らぎ、JR体制も大きく揺らぎ始めている。自信と確信をもって進もう。闘う労働組合の全国ネットワークを本格的に発展させ、一〇四七名闘争勝利への展望を何としてもこじあけよう。革マル結託体制を打倒し、組織の強化・拡大を実現しよう。結成20年の今年、われわれは新たな闘いのスタートラインにつく。